

2012 年度 第 1 回モトクロス委員会 議事録

【ダイジェスト版】

開催日：2012 年 7 月 10 日（火） 10 時 30 分～17 時 40 分

開催場所：東京・築地・MFJ 会議室（東京都中央区築地 3-11-6 築地スクエアビル 10F）

1 前回議事録の確認

2011 年 11 月 29 日に開催された 2011 年度第 2 回モトクロス委員会議事録が提出され、承認された。

2 全日本選手権前期開催報告

第 6 戦東北大会終了時点で、観客入場者数は前年対比 30%の減少。

参加台数は、IA2 の 86%が最も大幅な減少で、次いで IBOPEN が 93%、IB2 とレディースが 95%となった。

IA1 クラスは 122%と増加。

3 2012 年度全日本シリーズランキング中間報告

全日本モトクロス選手権シリーズ第 6 戦東北大会までの暫定ランキングが提出され、確認された。

4 2012 年モトクロスネーションズについて

2012 年 9 月 29～30 日、LOMMEL（ロンメル）/ベルギーで開催されるネーションズの進捗状況が報告された。

日本代表チーム出場体制

MX1：平田優、MXOPEN：小島庸平、MX2：三原拓也

チーム団長には、田中隆造モトクロス委員長にご就任頂くことが承認された。

※チーム監督については、選手会の要望に基づき引き続き調整を行う。

5 国内競技規則（改訂案）について

1) 国際 B 級から国際 A 級へのライセンス昇格見直しについて

- ① 地方選手権でシリーズチャンピオンを獲得した国際 B 級クラスの選手（IBOPEN・IB2 各クラス）が申請で国際 A 級に昇格する制度について、昨今の地方選手権国際 B 級クラスの出場者が極端に少ないことから、改訂案が提案された。

案①：国際 B 級クラスの総合で 1 位を 1 名のみとする

案②：従来の IB2、IBOPEN のシリーズチャンピオンは継続し、全日本での成績も加え昇格のガイドラインを決める

継続審議

過去 3 年に亘り、地方選手権 IBOPEN・IB2 チャンピオンで、申請昇格の権利を有する選手が、何名国際 A 級に昇格しているか？を本部事務局で調査し、そのデータを基に次回委員会にて審議する。

- ② 全日本 IA2 の出場台数（前年比 83%）にも表れている通り、国際 A 級の台数が減少している為、増加対策として、現行規則の全日本 IBOPEN、IB2 各クラスの 1 位～6 位までの自動昇格者の人数を増やす提案がなされた。

決定事項

2013 年のランキングより、全日本 IBOPEN・IB2 クラスの各 1 位～10 位の選手を自動昇格対象とする。

2) 関東地区からの提案

① 県大会のポイントスケールについて

決定事項

現行規則の出走台数に応じたポイントスケールからトライアル県大会で適用されているもの(2012 国内競技規則 P46 ④ 自動昇格に必要な得点(ポイント) ③ トライアル県大会: 1 位 10 点～10 位 1 点)へ改訂してほしいとの要望が提案され、2013 年シーズンより、改訂することが決定した。

※完走者(トップ走者の 75%を周回した者)のみに対するポイント付与であることを主催者は理解し、報告書における周回数とポイントの欄に正しく記載することに注意しなければならないことが補足された。

② スタート進行について

グリッドを選定するのに時間がかかり進行が円滑ではない為、下記が提案された。

継続審議

当該クラス 10 分前の集合時間までの時間にライダーだけスターティンググリッドの見学を可能とする方向で調整する。

※懸案事項

■下見可能時間の制限(いつ～集合 10 分前までとするか?)

■下見方法(下見時間にグリッドの路面状況を変化させる等の作業を禁止すべき)

■管理方法(下見ができるのはライダーのみに限定し、進行係が管理すべき)

③ ジュニアからの申請昇格を NA とする再改定について

技量差の観点から、ジュニアから国内 A 級への申請昇格に制度を差し戻してほしいとの提案がなされたが、参加者のニーズも考慮した上で昨年改訂となった経緯が説明され、否決された。

3) 第 6 戦までの事案に関する規則改訂(案)について

① スターティングエリアとピットエリアの作業について、下線部分の追記・修正を行うことが決定した。

決定事項

付則 16 2012 年全日本モトクロス選手権大会特別規則【206/207 ページ】

18-2-3-2 スターティングエリア内(スターティンググリッドを含む)は、ライダー、オフィシャル、当該クラス 出場ライダーに登録されているピットクルー(1 ライダーにつき 1 名のみに限られる)、プレス、レーシングサービス(ピットクルーライセンス所持者)、レース関係者(※)(キャンペーンガールまたは当該大会の競技監督に認められた者)以外の者は入ることは認められない。

※レース関係者は、傘をさす以外の行為を行うことは認められない。

19-2 ピットエリアおよびプレパレーションエリア・ウェイティングエリア内で当該ライダーの車両整備などに従事できるピットクルーは、当該ライダーに登録されているピットクルー 2 名以内に限られる。

- ② 技術関連規則の報告がなされた。
- a) 変更が認められたスプロケットカバーの形状は、安全確認を目的とした取り付け状態を重点に確認する。
 - b) マニュアルからオートマチックに変更可能とされるクラッチ部品の使用について技術委員会で審議され、国内技術仕様適用クラス（IB 以下）は使用不可、IA は使用可能であるという現状規則通りの審議結果となったことが報告された。
 - c) チャイルドクロスにおいて、現状規則通りスポークを社外品と交換してはいけないとの審議結果であったことが報告された。

③ 150Fcc/85cc クラス車両のゼッケン寸法について

決定事項

150Fcc/85cc クラスのみ以下寸法とする

■フロントゼッケン：

最低高 120mm 以上、数字の最低太さ 25mm 以上、最低幅 70mm 以上、**数字間スペース 10mm 以上**

■サイドゼッケン：

最低高 100mm 以上、数字の最低太さ 25mm 以上、最低幅 70mm 以上、**数字間スペース 10mm 以上**

④ スペアサイレンサーの本数制限の統一解釈について

決定事項

14-8 **音量測定に持ち込むことができるスペアサイレンサーはマシンに装着されているサイレンサー以外に最大 2 本（2 セット）までとする。**

※全日本全クラス（国際 A 級、国際 B 級、レディースクラス）統一適用。

⑤ 集合時間について

決定事項

① 集合時間は 10 分前集合とするが、ゲートの閉鎖は 205 ページ 18-2-2-2 に記載された手順通りと解釈する。

② ウェイティングエリアへの集合は、「人・車」両方とも集合している状況であること。

規則改訂：P20518-2-2-1 （下線部の追記）

「レース開始予定時刻の 10 分前までに、リザーブ選手を含む決勝進出者（ライダー・車両）は、ウェイティングエリアに集合しなければならない。」

⑥ 燃料補給について

スタート進行中の補給作業を禁止すべきとの提案が出されたが、現状規則通りとされた。

⑦ 2013 年 音量測定について

予告通り、全車 112 dB/A に音量規制値が改訂されることが報告された。

2013 年より、公認競技会すべてのクラスにおいて 2 mMAX 方式で音量測定を行うこととし、技術委員会に答申する。

決定事項 2013 年 規則改訂（案）（2013 年 1/1～施行）

- ・ 音量測定方法は全クラス 2mMAX 方式に統一する（全日本・地方選手権・県大会）
- ・ 全日本選手権 IA1 と IA2 の出場車両音量規制値は、最大で 112dB/A 以下とする
- ・ 全日本選手権（IB/LMX）・地方選手権・県大会の出場車両音量規制は最大で 115dB/A 以下とする
（2013 年の 1 年間のみ、移行期間としての対応とする）

※後の 2012 年度第 4 回技術委員会にて、地方選手権と県大会は移行期間を 2 年とすることが決定した。

⑧ 国内モトクロス技術仕様の改訂について

継続審議

技術委員会との共同作業で、国際 B 級以下の公認クラスを対象とする、「モトクロス国内技術仕様」の抜本的な見直しを図ることが承認され、草案が事務局より提出された。

⑨ ライセンス優遇期間について

2013 年 1 月～3 月までに新規でライセンスを取得する方を対象とした、割引優遇措置の MFJ 事務局案が報告された。（金額等は未定、調整中）

⑩ 医療体制について（MFJ 中国提案）

継続審議

- a) シリーズ共通にて、主催者で準備する医薬品・医療器具リストの作成
 - ・・・ 池尻委員が医師の助言を受け草案作成
- b) 負傷者救護体制マニュアルの作成（テント使用の場合も含め）
 - ・・・ 池尻委員が医師の助言を受け草案作成
- c) 医療機器をセットとし（キャリアバッグ等に入れて）、全日本シリーズに持ちまわり（荷造り運賃・送料は主催者負担）とする

⑪ その他

a) 自動計測装置（トランスポンダー）

全日本選手権に導入されているトランスポンダーのタグの保証期限（5 年）が経過し、買い替えが必要であるものの、参加台数減少に伴う運営資金不足の為、参加者の自己負担にて購入か、レンタル案が提案されたが、経費等の問題が残るため結論に至らず継続審議となった。

b) HSR九州スターティングマシンのリニューアルについて

主催者設備積立金からの支援について要望され、モトクロス委員会において承認された。今後、見積書提出の上、全日本 MX 選手権主催者に承認を確認することとなった。

c) コンクリート使用について

他施設同様にコンクリートを撤去する方向で検討されているが、火山灰による地面のぬかるみで悪天候時のグリッド使用に弊害が生じることが懸念されていることが報告され、モトクロス委員会としては、コンクリートにはこだわらず、地面（土部分）を高めを設定する方法等の意見が出され、施設で検討の上決定し、報告して頂くこととなった。

d) 競技中のコース横断について

競技中のプレスによるコース横断について、危険回避の為、横断出来る場所の徹底と横断基準のシリーズ統一化対応が提案された。競技中のコース横断については、以前大会主催者より警告をした際、

プレスより取材業務に支障が出る理由で制限を反対する意見が出されたが、危険回避は最優先すべきである為、次戦全日本選手権よりコース横断は原則禁止とし、レースとレースの間のインターバルに行うなどの警告をしていくこととなった。

e) ヘルメット着用義務について

決定事項

ウィニングランや選手紹介等、コース内を走行する全ての者は、ヘルメット着用を義務とする。

※スターティンググリッドにおいて、エンジン停止状態で行われる選手紹介は、ヘルメットを脱いだ状態で問題ない。

なお、ウィニングランへの参加は、ライダーの体調管理なども考慮して、任意とする。

f) 安全対策の一環として、ピットサインエリアの防護ネット設置推進について（川崎重工提案）

g) モトクロスオブネーションズへの協会からの費用補助検討について（川崎重工提案）

h) IA2 年齢制限の条件の改訂案について（川崎重工提案）

IA2 クラスで今年から適用された年齢制限規則に対して、現状の 25 歳以下の年齢制限と併せ、以下の条件を追加する案が提出され、審議された。

<案> IA1 ランキング 16 位以下の選手は年齢に関係なく、翌年 IA2 クラスに出場できることとする。

（ただし、IA1 クラスにおいて過去 3 年以内にランキング 10 位の選手は不可）

継続審議

今年から適用されている新規則であり、後半戦も含めた IA2 の動向をみってみる必要がある。

国際 A 級の 25 歳以上の選手の出場環境について、作業部会にて草案をまとめ、次回委員会にて検討する。

7 普及対策について

1) 国内モーターサイクルスポーツの方向性

本部事務局より、2020 年ビジョン資料に基づいた、本年度の進捗状況について報告され了承された。

① 競技方式の見直し

IA2 に年齢制限を適用し、若手クラスの位置づけを明確化した

② レースのコンパクト化

レース時間の短縮やヒート数削減等、観客に飽きない競技方式への改良は未着手

③ メインレースのショーアップ

選手紹介の実施や選手会主導によるファンサービス活動は継続して展開

④ 効率的な運営形態

九州・中国・近畿大会でエントリー業務等を一括してアウトソーシングを行い、作業効率の向上と経費の合理化を行っている。（※全戦統一により更なる合理化が図られる）

⑤ 競技情報の発信

MFJ ホームページへタイスケ等の掲載を早めにアップ。後半戦の観客導入促進を目的としたライディングリミテッド（別冊）を発行し、会場で無料配布した。

⑥ 開催日程の短縮化

土曜日に IA1 クラスの予選レースを復活させた。また、タイスケもマイナーチェンジした。

⑦ 世界・アジアとの交流

本年度 MX オブネーションズの選手について、選手会から選出されたメンバーの承認とエントリー手続きを行う。

また、来年 3 月にタイで開催が予定されている世界選手権に日本人選手の出場が現地から要望されている。

⑧ スクールの拡充

モトクロス全国大会において、モトクロス選手会主導によるスクールが開催を予定されている

⑨ 手軽に参加できる競技会の環境整備

近畿地区にあるウズ下市で開催されている「ごきげんモトクロス」を普及作業部会として池尻副委員長と本部事務局が視察したい意向が承認された。

⑩ 2012 年優先課題として、「景気対策と地方活性化」が追加された。

現況：モトクロスライセンス登録者が 12%減少し、特にジュニアが 79%と落ち込みが激しい。

最も多い年齢層が 9～15 歳であるが、16 歳～19 歳で大幅に減っている。

地方選手権の 1B クラスは参加台数が激減し、九州地区ではすでに 2 大会が不成立となっている。

課題：

- ① ライダーの高齢化対策
- ② 全日本の開催数と日程調整による負担軽減策
- ③ 全日本の参加台数・観客・スポンサー増加対策
- ④ 地方選手権国際 B 級クラスへの対応策
- ⑤ ジュニアクラスの減少歯止めと 16 歳～19 歳の年齢層の増加対策

継続審議

モトクロス作業部会を招集し、上記課題への対策に関する草案を作成し、次回委員会にて審議する。

2) 選手会からの意見について

- ① 全日本とネーションズとの調整ができない為全日本が終了してからネーションズに参加したい。
■1～10 月までのレースシーズンにおける調整では、全日本を 9 月までに終了させるのは難しい
- ② パスの一本化
■シリーズの窓口を一元化することにより実現は不可能ではないが、主催者の同意も必要である
- ③ 夏のインターバルをなくして、レース数を増やしてほしい。
■主催者側の負担を考慮すると、夏場の開催は、会場都合や熱中症対策等が必要な為、負担が大きい。
- ④ トランスポンダーによるインターネットでのラップタイムが確認できる環境が望ましい。
■実現可能か？現状のトランスポンダー業者に相談してみる。
- ⑤ メディカルの体制強化に取り組んでほしい。
■近畿大会で医療体制にご協力を頂いている JOMOS の派遣が可能か調査する。(主催者許可も必要)
- ⑥ 公式練習時のスタート練習時間を今より短縮してほしい(削除の意見も)
■原則は現状通りの開始 3 分間とする(中国はレイアウトコース変更にかかる時間を要するとの意見に対し、短縮する方法を検討する)
- ⑦ 1A クラスでチャンピオンを獲得したことのある選手は、無料で希望ゼッケンを選べる制度にしてほ

しい。

決定事項

国内競技規則書の歴代チャンピオンリストに掲載された IA チャンピオンは、無償で希望ゼッケンを申請できる。

但し、希望ゼッケン買取規定により、希望できないゼッケン番号以外で選択する。

※IA チャンピオン獲得者以外の選手が希望する場合の買い取りは、これまで通り継続とする。

⑧ 開催数増加の要望

■大会の主催者、施設の都合も考慮し、調整を進めなければならない。

8 2013 年主要競技会日程の調整

暫定日程案が提出され、了承された。(あくまで暫定日程である為、要注意)

- ◎ 4月 7日 九州大会 (HSR 九州)
- ※1 ◎ 4月 21日 関東大会 (オフロードビレッジ)
- ◎ 5月 12日 中国大会 (会場未定)
- ※2 ◎ 5月 26日 SUGO 大会 (スポーツランド SUGO)
- ※3 ◎ 6月 16日 北海道大会 (北海道オフロードパーク)
- ◎ 7月 14日 藤沢大会 (藤沢スポーツランド)
- ◎ 9月 8日 近畿大会 (名阪スポーツランド)
- ※4 ◎ 9月 29日 中国大会 (会場未定)
- ◎ 10月 27日 MFJ グランプリモトクロス (SUGO)
- 8月 4日 モトクロス全国大会 (ウズ下市/奈良県)

※1: 関東大会は 1 戦追加開催の情報もあり、調整中

※2: SUGO 大会は 6 月 2 日に日程変更する場合あり

※3: 北海道大会は 6 月 23 日の日程で提案されたが、その後の調整により 6 月 21 日で決定

※4: 秋の中国大会は、10 月 6 日に変更する場合あり (ネーションズの都合による)

また、中国大会の会場については、調整中である

■中部地区において、いなべモーターランドでの開催が検討され 7 月の地方選手権で現地視察が行われることが報告された。

■2013 年 3 月 17 日 (10 日に変更の可能性あり) にタイで開催される世界選手権 MX に対し、各メーカーで 2 名ずつ計 8 名の日本人ライダーの出場を希望する旨、MFJ に連絡があったことが報告された。

以上